

西条市地域公共交通活性化協議会（案）

地域内フィーダー系統
事業評価(平成28年度)

西条市基礎データ

合併状況:平成16年11月に2市2町が合併
人口:11万人(平成28年12月末現在)
面積:509.98平方キロメートル

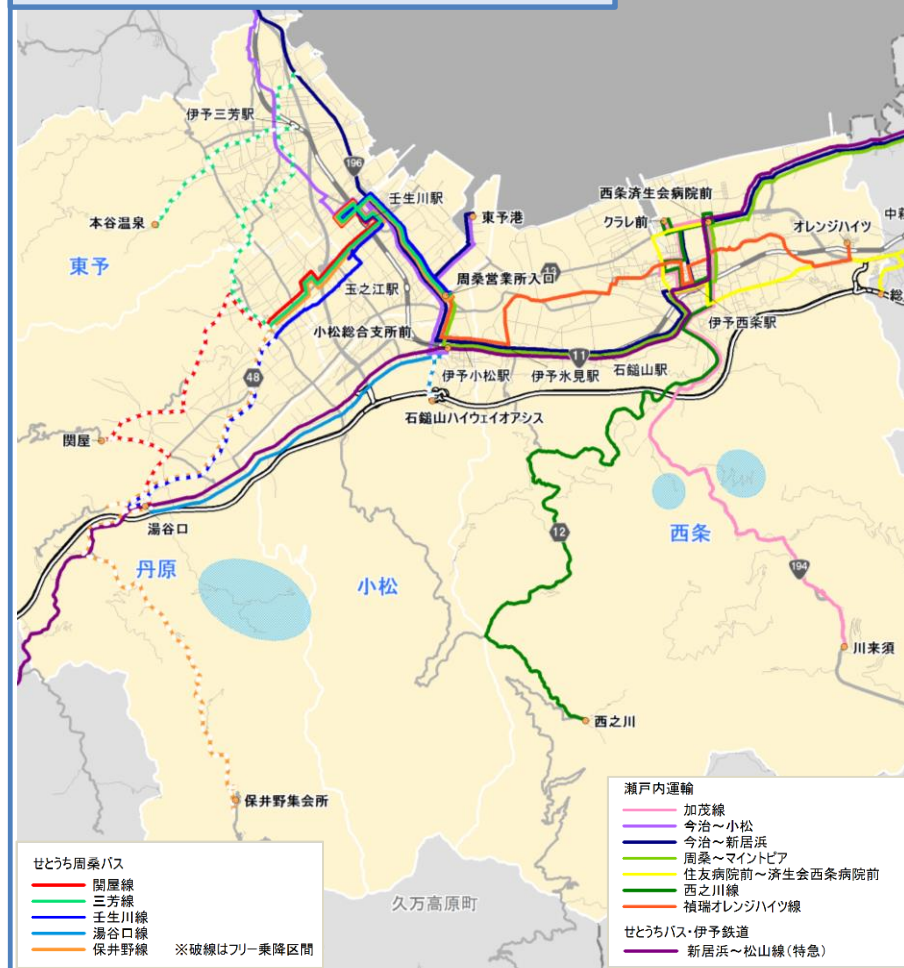
地域の交通の目指す姿（事業実施の目的・必要性）

別添1-2参照

西条市における主な公共交通概要

- (幹線)
- 鉄道
 - ・四国旅客鉄道(株) 予讃線(市内7駅)
 - バス
 - ・今治市を起点に西条市を經由し、新居浜市新居浜市までを運行する民間事業路線
 - ・JR松山駅を起点に東温市と西条市を經由してJR新居浜駅までを運行する特急線
- (フィーダー)
- バス
 - ・JR壬生川駅で幹線につながる民間事業路線
 - ・JR伊予西条駅で幹線につながる民間事業路線
 - デマンド型乗合タクシー
 - ・加茂地区と西条市街地を結ぶ運行
 - ・楠窪地区と丹原中心部を結ぶ運行

西条市の公共交通ネットワーク図



西条市地域公共交通活性化協議会（案）

地域内フィーダー系統
事業評価(平成28年度)

協議会の構成員

西条市 瀬戸内運輸(株) せとうち周桑バス(株) 愛媛県バス協会 愛媛県ハイヤー・タクシー協会 四国旅客鉄道(株) 四国地方整備局 西条・西条西警察署 西条市連合自治会 西条市老人クラブ連合会 西条市連合婦人会 西条市社会福祉協議会 西条商工会議所 周桑商工会 西条市観光協会 西条市医師会 瀬戸内運輸労働組合 四国運輸局

前年度の事業評価における課題

定量的な目標・効果

(目標)

・移動目的に見合う環境が整うため、利便性の向上による路線バス利用者増加を図る。

※1便当たり利用者数を5人以上とする。

(効果)

・買い物や通院といった高齢者等の移動目的に見合う路線を確保することで、外出機会の増加を促進し、生きがいつくりの一端を担うとともに、需要と供給による更なるサービスの向上が期待できる。

フィーダー系統図



せとうち周桑バス
— 保井野線 ※破線はフリー乗降区間
瀬戸内運輸
— 加茂線
— 西之川線

「定量的な目標・効果」達成のための取組

- ・山間部を中心に住民アンケート調査や乗降調査を実施し、バスの利用状況や移動実態の把握に努めた。
- ・移動実態の把握により、平成27年10月から路線の一部延伸・ルートの見直し等に取り組んできた。
- ・山間部の一部住民を対象に、移動実態把握のためのヒアリングを実施し、それを基に意見交換を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・保井野線
交通空白地への一部路線延伸により、新たな利用者を開拓するとともに、日常生活に必要な病院や商業施設が立地する主要道路を通るルートへの見直しにより利便性の向上を図った。
- ・加茂線、西之川線
山間部からの2路線を市街地における循環的な役割を担う路線へと見直し、駅や病院、商業施設を経由することで山間部住民の移動をはじめ市街地での利便性の向上を図った。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・市街地等で外出目的に見合う路線へ見直したものの、利用者が定着しなかったこと等により目標を達成することはできなかった。

※1便あたりの利用者数5人以上。

○保井野線：2.3人/便

○西之川線：4.5人/便

○加茂線：4.3人/便

事業の今後の改善点

- ・身近な公共交通である路線バスを住民アンケートや乗降調査にて得た移動実態に基づき、買い物や通院といった目的に見合う路線へと見直しを行ったが、利用者をはじめ市民等への周知（広報）が十分とは言えず、利用者の定着につながらなかった。
- ・路線バス利用の定着を図るために、利用に関するチラシ等を作成・配布し、日常生活を送るうえでの移動手段として身近に認識してもらえるような取り組みを実施する。
- ・山間部の高齢化・人口減少は、山間部における今後の交通体系のあり方を随時検討・検証していく必要性を高める要因となっており、アンケートや意見交換等にて地域の実情に応じた交通体系（デマンド交通や自家用有償運送等）での移動手段確保も視野に検討する。

その他PRポイント